



第 61 ~ 80 卷

総 目 次  
著者名索引

## 凡 例

- 1 本付録は史林第61巻～80巻の総目次および著者名索引である。
- 2 総目次には、史林掲載記事のうち、論説、研究ノート、研究動向、史料（資料）紹介、書評および史学研究会大会講演要旨のみを収録し、その他は省略した。
- 3 記事の配列は大きく各巻毎にわけ、それぞれの巻について分類毎に号・頁順に並べた。
- 4 論文名の副題は省略した。
- 5 総目次掲載記事のすべてについて、著者名索引を付し、その掲載巻・号数を示した。
- 6 著者名索引は、氏名を姓で区切って50音順に配列した。外国人名は原音に近い日本語読みに従ったが、漢字で表記される人名の場合は、検索の便宜を考え、日本語音読みによるものも併録した。
- 7 総目次・著者名索引の編集は史林編集委員会が担当した。

## 第 61 卷 (1978年)

## 【論 説】

	号
鎮西地頭の成敗権	大 山 喬 平 1
明末清初の一農業経営	足 立 啓 二 1
ヴァーチュオーソと科学	川 島 昭 夫 1
延喜庄園整理令と初期庄園 “仁孝”	丸 山 幸 彦 2 渡 辺 信 一 郎 2
改革者ジェーン・アダムズ	常 松 洋 2
縄文時代中期における集落の空間構成と集団の諸関係	丹 羽 佑 一 2
粟嶽と『本草集注』	和 田 萃 3
糖業プランテーションとジャワ農村社会	植 村 泰 夫 3
平安期の大和盆地における条里地割内部の土地利用	金 田 章 裕 3
戴名世断罪事件の政治的背景	大 谷 敏 夫 4
中世寺院成立に関する一考察	久 野 修 義 4
鳥取藩における宗主権の確立	河 手 龍 海 4
東方会の成立	永 井 和 4
プロイセンにおける村落建設	山 田 作 男 5
「六町」の成立と展開	高 橋 康 夫 5
ウォルター・E・ワイル	紀 平 英 作 5
ストックホルム会議とツィンメルヴァルト運動	山 内 昭 人 5
十六世紀ヴェネツィア史における政治意識の覚醒	永 井 三 明 6
ギー・ド・リュジニャンのクーデター	八 塚 春 児 6
エジプトにおけるファティマ朝前半期のワズィール職	菟 原 卓 6
戦国大名長宗我部氏の城下岡豊の市町	小 林 健 太 郎 6

## 【研究ノート】

アメリカ現代史研究の一課題	紀 平 英 作 1
「惣村」の展開と土地利用	吉 田 敏 弘 1
ナチ党の地方指導者	野 田 宣 雄 3
宋代開封と張抃端『清明上河図』	木 田 知 生 5

## 【研究動向】

女性史研究の一視角	西 村 貞 枝 6
-----------	-----------

## 【書 評】

V. Schmidt, <i>Die deutsche Eisenbahnpolitik in Schantung (1898-1914)</i>	大 島 偕 美 1
仲手川良雄著『ブルクハルト史学と現代』	岸 田 達 也 1
倉松 功著『ルター神学とその社会教説の基礎構造』	永 田 諒 一 1
ひろたまさき著『福沢諭吉研究』	鹿 野 政 直 2
Eric Bournazel, <i>Le gouvernement capétien au XII<sup>e</sup> siècle, 1108-1180</i>	江 川 温 2
稲生典太郎著『条約改正論の歴史的展開』	山 本 四 郎 3
弓削 達著『地中海世界とローマ帝国』	大 西 陸 子 3
森本 轟著『中世末期の教会領研究』	朝 治 啓 三 3
長山泰孝著『律令負担体系の研究』	鎌 田 元 一 4
池田源太郎著『奈良平安時代の文化と宗教』	戸 田 秀 典 5
太田秀通著『東地中海世界』	大 西 陸 子 5
青山吉信著『イギリス封建王制の成立過程』	富 沢 靈 岸 5
津田秀夫著『幕末社会の研究』	水 本 邦 彦 6

## 【紹 介】

P. ゲイ著, 鈴木利章訳『歴史の文体』	朝 治 啓 三 1
N. フラメル著, 有田忠郎訳『象形寓意図の書・賢者の術概要』	川 島 昭 夫 1
東洋大学中世法制史料研究会編『 <small>親元日</small> 政所賦銘引付』索引』	小 林 保 夫 2
弓削 達・伊藤貞夫編『古典古代の社会と国家』	大 西 陸 子 2
James M. Powell ed., <i>Medieval Studies: An Introduction</i>	井 上 浩 一 2
リモジョン・ド・サン＝ディディエ著, 有田忠郎訳『沈黙の書・ヘルメス学の勝利』	川 島 昭 夫 2
吉村 正著『シティ・マネージャー』	常 松 洋 3
エイカン・デュ・マルティノー著, 有田忠郎訳『生ける潮の水先案内人』	川 島 昭 夫 3
ジュール・ミシュレ著, 大野一郎訳『民衆』	阿 河 雄 二 郎 3
E. W. モンター著, 中村賢二郎・砂原教男訳『カルヴン時代のジュネーヴ』	中 谷 博 幸 4
小池滋著『ロンドン——ほんの百年前の物語——』	江 川 志 を り 4
LA 研究センター発行『LA 研究』四号・六号	青 木 芳 夫 4
F. レーリヒ著, 魚住昌良・小倉欣一共訳『中世ヨーロッパ都市と市民文化』	服 部 良 久 5
C. V. ウッドワード著, 清水博・長田豊臣・有賀貞訳『アメリカ人種差別の歴史』	横 山 良 5
後藤陽一編『瀬戸内海地域の史的展開』	田 中 誠 二 6
大高順雄・福井秀加編『Apocalyps Anglo-Normande』	鈴 木 利 章 6
Jaroslav Folda, <i>Crusader Manuscript Illumination at Saint-Jean</i>	

<i>d'Acre, 1275-1291</i>	八塚春児	6
Bernardo Sepúlveda Amor et al., <i>Las empresas transnacionales en Mexico</i>	青木芳夫	6
ルーミー著, 井筒俊彦訳・解説『ルーミー語録』	新谷英治	6

【大会記事】——昭和52年度史学研究会大会講演要旨——

木簡研究の諸問題	狩野久	1
古代チベットの軍制について	佐藤長	1

第62巻(1979年)

【論説】

「新訂万国全図」の主要資料アロウスミスの原因について	船越昭生	1
「神の平和」運動と十二世紀カペー王権	江川温	1
共産主義者同盟解散説の行方	谷口健治	1
東方会の展開	永井和	1
シュメール都市国家時代末期ラガシュにおける農耕年視点の確立	山本茂	2
戦国大名北畠氏の権力構造	西山克	2
恐慌前夜の江浙機械製糸業	奥村哲	2
一三世紀ダラムの巡回裁判	朝治啓三	2
漢代の家族とその労働	上田早苗	3
ヘントのカルヴァン派独裁(一五七七—一五八四)	川口博	3
ロシア共産党の社会的構成	尼川創二	3
アッバース朝中期における金銀通貨について	佐藤圭四郎	3
金沢城下絵図史について	矢守一彦	3
朱三太子案について	竺沙雅章	4
織田政権の蔵入領	奥野高廣	4
現物税について	梶川伸一	4
「帝都」メヒコにおける食料調達の問題	小林致広	4
漢代の贖贈について	佐伯富	5
別形態の院宣・繪旨	橋本初子	5
第二次大戦直後のアメリカリベラル	島田真杉	5
戦国期における荘園村落と取収	田中倫子	6
シャイバーニー・ハンとアルクーク城	堀川徹	6
漢代大型墓の構造	西村俊範	6

## 【研究ノート】

アンドロニコス一世とビザンツ貴族	井上浩一	4
古代チベットの若干の地名について	佐藤長	5
大正初頭の国体観・皇室観	山本四郎	5

## 【研究動向】

中世におけるブルクと都市	服部良久	6
--------------	------	---

## 【資料紹介】

極東勤労者大会日本代議員団採択綱領	岩村登志夫	3
-------------------	-------	---

## 【書評】

佐藤長著『チベット歴史地理研究』	若松寛	1
G. W. Skinner (ed.), <i>The City in Late Imperial China</i>	秋山元秀	1
田中正義著『イングランド初期経済史の諸問題』	朝治啓三	2
杉原泰雄著『人民主権の史的展開』	岡本明	2
島一郎著『中国民族工業の展開』	吉田泮一	3
富岡次郎著『ゼネストの研究』	大前真	3
富澤靈岸著『イギリス中世国制史の研究』	鈴木利章	4

## 【紹介】

永島福太郎編『三木金物問屋史料』	朝尾直弘	1
門脇楨二著『蘇我蝦夷・入鹿』	館野和己	1
松山宏著『武者の府 鎌倉』	杉橋隆夫	1
米原章三伝刊行会編『米原章三伝』	永井和	1
古代学協会編『西洋古代史論集Ⅲ 古典時代の諸相』	大西陸子	1
戸田芳実編『日本史(2) 中世1』	水野章二	2
D. E. Queller, <i>The Fourth Crusade</i>	八塚春児	2
阿部謹也著『刑史の社会史』	服部良久	2
W・H・ウォルシュ著, 神山四郎訳『歴史哲学』	芝井敬司	3
N・コーン著, 江河徹訳『千年王国の追求』	永田諒一	3
Dereck Gregory, <i>Ideology, Science and Human Geography</i>	石川義孝	3
M・ブロック著, 高橋清徳訳『比較史の方法』	芝井敬司	4
国立公文書館内閣文庫刊『朽木家古文書 上・下』	今谷明	5
Hans-Christoph Rublack, <i>Gescheiterte Reformation Frühreformatorische und pro-testantische Bewegungen in süd- und westdeutschen geistlichen Residenzen</i>	中谷博幸	5
奥田央著『ソヴェト経済政策史』	梶川伸一	5

原口正三著【須恵器】	宇野隆夫	5
ジャケッタ・ホークス著、小西正捷・近藤英夫・河野真知郎・ 白土則子共訳【古代文明史1】	大江節子	5
W. Den Boer, <i>Progress in the Greece of Thucydides</i>	藤縄謙三	6
J. Riley Smith, <i>What Were the Crusades?</i>	八塚春児	6
G. L. Mosse, <i>Toward the Final Solution</i>	竹中亨	6

【大会記事】——昭和53年度史学研究会大会講演要旨——

南アジアにおける農業集落研究	応地利明	1
天山ウイグル王国とウイグル文書	山田信夫	1

【訃報】

本会顧問 赤松俊秀博士訃	今谷明	3
--------------	-----	---

第63巻（1980年）

【論説】

秦国の家族と商鞅の分異令	佐竹靖彦	1
一九世紀後半におけるフランス鉄鋼業界	長倉敏	1
明清時代、廣東の墟と市	林和生	1
越後の天和検地と農村構造の展開	松永靖夫	1
一八世紀のスペイン＝アメリカ貿易とフランス	服部春彦	2
晋宋革命と江南社会	葭森健介	2
中世下オーストリアにおけるマルクトの成立	服部良久	2
中部ネパール、マガル族の耕地制度と景観変化	小林茂	2
革新主義時代における都市政治	志邨晃佑	3
中世的異端の歴史的意義	平雅行	3
マルティン・ブツァーとシュトラスブルクミサ廃止	中谷博幸	3
第一次国共合作の成立について	北村稔	3
評制施行の歴史的前提	鎌田元一	4
一七世紀北インドにおけるアイの生産と流通	長島弘	4
一三世紀ウィルトシアの世俗領荘園	朝治啓三	4
ヴェネツィア貴族階級の確立とその背景	永井三明	5
熊野銅山史の研究	小葉田淳	5
一九二〇年代中・後期の地方都市民衆運動	伊藤之雄	5
【儀禮】と敦	林巳奈夫	6
律令中央財政機構の特質について	俣野好治	6

白虎観会議前夜 富谷 至 6

### 【研究ノート】

清代江南の水利慣行と郷董制 大谷 敏夫 1  
 現物税から貨幣税へ 梶川 伸一 2  
 旧中国農村における市場圏と通婚圏 石田 浩 5  
 東亜連盟論の成立と展開 桂川 光正 5  
 李自成台頭以前の明末の華北民衆反乱 吉尾 寛 6  
 カトリック教徒とナチズム 野田 宣雄 6

### 【史料紹介】

幸徳秋水の手紙とノート 石田 善人 4  
 『東山殿時代大名外様附』について 今谷 明 6

### 【研究動向】

ドイツ・フマニズムス研究の視角 永田 諒一 4

### 【書評】

大山喬平著『日本中世農村史の研究』 入間田 宣夫 3  
 И. И. Коваленко, Очерки истории коммунистического  
 движения в Японии до второй мировой войны 岩村 登志夫 3  
 佐藤宗諱著『平安前期政治史序説』 西山 良平 4  
 Paul L. Murphy, *World War I and the Origin of Civil Liberties in  
 the United States* 紀平 英作 5  
 源了圓著『近世初期実学思想の研究』 宮城 公子 6  
 河野健二編『資料フランス初期社会主義』 坂本 慶一 6

### 【紹介】

黒羽清隆著『十五年戦争史序説』 松延 秀一 1  
 鬼頭清明著『律令国家と農民』 西山 良平 2  
 S・ギーディオン著、前川道郎・玉腰芳夫訳『建築、その変遷』 南川 高志 2  
 上智大学イベロアメリカ研究所発行『イベロアメリカ研究』創刊号 青木 芳夫 2  
 Daniels T. Rodgers, *The Work Ethic in Industrial America  
 1850-1920* 竹田 有 2  
 E. Juillard et H. Nonn (eds.), *Espaces et Regions en Europe  
 Occidentale* 西村 孝彦 2  
 木簡学会編『木簡研究』 橋本 義則 3  
 『ドイツにおける都市史研究の現状』 服部 良久 3



バンクス夫妻著, 河村貞枝訳『ヴィクトリア時代の女性たち』	村岡健次	4
池内義資編『中世法制史料集別巻 <small>御成敗式目 註釈書集要</small> 』	上横手雅敬	5
小和田哲男著『戦国大名』	今岡典和	5
立花雄一著『評伝 横山源之助』	立川健治	5
Canfield F. Smith, <i>Vladivostok under Red and White Rule</i>	松延秀一	5
橋口倫介著『十字軍』	八塚春児	6
小玉新次郎著『パルミラ』	堀川徹	6
富山県教育委員会編『高樹文庫資料目録』	船越昭生	6
R. A. Dodgshon and R.A. Butlin (eds.), <i>An Historical Geography of England and Wales</i>	藤井正	6

## 【訃報】

小野川秀美博士訃	島田虔次	5
森鹿三博士訃	梅原郁	6

## 【大会記事】——昭和54年度史学研究会大会講演要旨——

ヴェネツィア貴族階級成立の背景	永井三明	1
アフガニスタンにおける京大隊の調査	樋口隆康	1

## 第 64 卷 (1981年)

## 【論説】

寺内内閣時代の日中関係の一面	山本四郎	1
唐の南衙と北衙の南司と北司への推移	曾我部静雄	1
イギリス中世都市における自治と寡頭専制支配	武居良郎	1
一九世紀末ヘッセンの反ユダヤ主義農民運動	竹中亨	1
唐代華北の主穀生産と経営	大澤正昭	2
元朝の商業政策	宮澤知之	2
労働騎士団 その思想と行動	竹田有	2
陂渠灌漑下の稲作技術	米田賢次郎	3
徳川頼宣の藩教学思想	柴田純	3
現代歴史学と数量的方法	芝井敬司	3
ラン司教アダルベロンと『ロベール王に捧げる歌』	江川温	4
平安後期の侍所について	元木泰雄	4
清代華北の農業経営と社会構造	足立啓二	4
土砂留役人と農民	水本邦彦	5
宋代における両税の折納について	島居一康	5

元代画壇の復古運動と文人画家	田村実造	5
前期畿内政権論	川西宏幸	5
シベリア原住民の地理的概念	斉藤晨二	6
「外記政」の成立	橋本義則	6
西周金文に見える小子について	木村秀海	6
ノルマン朝シチリア王国に関する一考察	山邊規子	6
日本労働総同盟の第一次分裂と西尾末廣	千本秀樹	6

### 【調査報告】

京都府長岡京市カラネガ岳一・二号古墳の発掘調査	岡内三真・和田晴吾・宇野隆夫	3
-------------------------	----------------	---

### 【研究ノート】

倭国王武の上表文について	湯浅幸孫	1
気候変動とナイル氾濫レジーム	中島健一	3
メキシコ革命とナショナリズム	青木芳夫	4

### 【研究動向】

アンシャン=レジーム期の社会史研究の現況	阿河雄二郎	2
十字軍国家における「コミュニン運動」	八塚春児	4

### 【書評】

中山弘正編著『ネップ経済の研究』	梶川伸一	1
村岡健次著『ヴィクトリア時代の政治と社会』	松浦高嶺	2
京大東洋史辞典編纂会編『新編東洋史辞典』	山田信夫	2
Geoff Eley, <i>Reshaping the German Right: Radical Nationalism and Political Change after Bismarck</i>	竹中亨	4
Roger M. Savory (tr.), <i>History of Shah 'Abbas the Great</i>	羽田正	4
Bernd Moeller, <i>Deutschland in Zeitalter der Reformation</i>	中谷博幸	5

### 【紹介】

城戸毅著『マグナ・カルタの世紀』	朝治啓三	1
高橋理著『ハンザ同盟』	服部良久	1
『日本城郭体系11 京都・滋賀・福井』	小島道裕	2
Fritz Bläich, <i>Staat und Verbände in Deutschland zwischen 1871 und 1945</i>	中谷博幸	5
木簡学会編『木簡研究』第二号	西山良平	3
山本四郎編『寺内正毅日記一九〇〇～一九一八』	松延秀一	3
銭存訓著, 宇都木章・沢谷昭次・竹之内信子・廣瀬洋子訳		

『中国古代書籍史—竹帛に書す—』	糴山明	4
『三国遺事索引』	田中俊明	4
新田一郎著『キリスト教とローマ皇帝』	南川高志	4
四竈孝輔著『侍従武官日記』	松延秀一	4
Türgen Golte, <i>Repartos y rebeliones: Túpac Amaru y las contradicciones de la economía colonial</i>	小林致広	4
R・A・ニコルソン著, 中村潔訳『イスラーム神秘主義における ペルソナの理念』	川本正知	5
山本武利著『近代日本の新聞読者層』	松延秀一	6
C・ブリッカー著, 矢守一彦訳『世界の古地図』	船越昭生	6
<b>【大会記事】</b> ——昭和55年度史学研究会大会講演要旨——		
院政時代の武士	上横手雅敬	1
アメリカ史における市民的自由	今津晃	1

## 第65巻(1982年)

## 【論説】

幽王チュベイとその系譜	杉山正明	1
フランス啓蒙時代のフィロゾーフ像	森原隆	1
ソヴェト「二三年危機」	梶川伸一	1
元・明交替の理念と現実	檀上寛	2
初期庄園の経営	丸山幸彦	2
ルターと「皇帝に対する武力抵抗権」	永田諒一	2
セプティミウス・セウェールスとローマ元首政	南川高志	2
ウィルソン政権の新四国借款団政策	松田武	3
平安期の垣内	水野章二	3
フランス第二共和政・制憲議会議員の投票行動分析	高木勇夫	3
エーゲ化文化圏	村田数之亮	4
同善会小史	夫馬進	4
ウガリト王国の uddy について	近藤洋子	4
単竜・単鳳環頭大刀の編年	新納泉	4
井戸考	宇野隆夫	5
参議制の成立	虎尾達哉	5
大名留守居組合の制度史的考察	笠谷和比古	5
明末清初, 広東珠江右岸デルタにおける社賊・土賊の蜂起	井上徹	5
秦の隷属身分とその起源	糴山明	6

唐代河東池塩の生産と流通	妹尾達彦	6
加藤友三郎内閣期の選挙法改正問題	松尾尊允	6
フランスにおける社共の政権協力と決裂	杉本淑彦	6

### 【研究ノート】

王政改革期のギエンヌ州	岡本明	1
高野房太郎	立川健治	3

### 【研究動向】

ヴァイズテューマー研究の課題	服部良久	1
----------------	------	---

### 【書評】

伊藤唯真著『浄土宗の成立と展開』	平雅行	1
井上満郎著『平安時代軍事制度の研究』	元木泰雄	3
杉村貞臣著『ヘラクレイオス王朝時代の研究』	井上浩一	5
脇田修著『織田政権の基礎構造 織豊政権の分析 I』	中口久夫	6

### 【紹介】

K・ブランシュケ著、寺尾誠訳『ルター時代のザクセン』	永田諒一	1
アイザリア・バーリン著、小池銈訳『ヴィーコとヘルダー』	芝井敬司	1
『細谷松太著作集』I・II	小泉洋	2
L・フェーヴル著、二宮敬訳『フランス・ルネサンスの文明』	森原隆	2
R・H・C・デーヴィス著、柴田忠作訳『ノルマン人』	山邊規子	2
織田武雄著『古地図の世界』	矢守一彦	3
李樹健編著『慶北地方古文書集成』	藤本幸夫	4
角山栄・川北稔編『路地裏の大英帝国—イギリス都市生活史』	上垣豊	5
Louise and Jonathan Riley-Smith, <i>The Crusades</i>	八塚春児	5

### 【大会記事】——昭和56年度史学研究会大会講演要旨——

戦国末期土佐国の地方的中心集落	小林健太郎	1
極東思想史における三浦梅園	島田虔次	1

## 第 66 卷 (1983年)

### 【論説】

荀子の国家論	渡辺信一郎	1
一九二一年ロシア共産党爾清	尼川創二	1

国の昇格と国府の変容	米倉二郎	1
双頭竜文鏡(位至三公鏡)の系譜	西村俊範	1
糖業プランテーションとブスキ農村社会	植村泰夫	2
一九世紀後半のフランス社会と教権主義	上垣豊	2
片山潜	立川健治	2
唐代中国および律令期日本における土地表示法	金田章裕	3
北京大学と軍閥	小林善文	3
中世村落の構造とその変容過程	吉田敏弘	3
戦国期の守護権力	今岡典和	4
欧陽脩における歴史叙述と慶暦の改革	小林義廣	4
第一次国共合作の展開について	北村稔	4
幕末における御前会議と「有司」	井上勝生	5
陳朝期ヴェトナムの路制に関する基礎的研究	桃木至朗	5
出羽三山信仰圏の地理学的考察	岩鼻通明	5
清末湖北省財政の分権的展開	黒田明伸	6
一六、七世紀におけるスペインの新世界貿易とフランス	服部春彦	6
マームーンとムウタスィムの新軍団	余部福三	6

### 【研究ノート】

アボリショニストの改革姿勢	清水忠重	1
ロシア革命直後の食糧政策	梶川伸一	2
原内閣と山県系官僚	伊藤之雄	4
カタローグス・バローヌムについて	山邊規子	6

### 【書評】

井上浩一著『ビザンツ帝国』	山邊規子	1
市川承八郎著『イギリス帝国主義と南アフリカ』	中山章	3
中国社会科学院歴史研究所清史研究室編『清史論叢』第三輯	夫馬進	4
Peter Blickel, <i>Deutsche Untertanen Ein Widerspruche</i>	服部良久	6

### 【紹介】

梶村秀樹『朝鮮史の枠組と思想』	康玲子	1
A・F・ライト著、布目潮瀧・中川努訳『隋代史』	ジョン・リ	2
奈良国立文化財研究所創立三十周年記念論文集刊行会編 『文化財論叢』	宇野隆夫	5

### 【訃報】

本会顧問 梅原末治博士訃	有光教一	4
--------------	------	---

## 【大会記事】——昭和57年度史学研究会大会講演要旨——

イギリス近世史上の奢侈禁止法	川北稔	1
三角縁神獸鏡とその周辺	樋口隆康	1

## 第67巻(1984年)

## 【論説】

秦帝国形成過程の一考察	間瀬収芳	1
イラン立憲革命におけるラシュト蜂起	黒田卓	1
ローマ皇帝の哲学者弾圧について	南川高志	1
世紀転換期前後のバイエルン中央党の動向	竹中亨	1
葛川・伊香立庄相論考	下坂守	2
宋太祖弑害説と上清太平宮	愛宕元	2
マキャヴェリの思想の原点	柴山英一	2
コルチ考	羽田正	3
関東申次と院伝奏の成立と展開	美川圭	3
政権参加時代(一九四四～四七年)のフランス共産党と労働者	杉本淑彦	3
常布と調庸制	吉川真司	4
寺内内閣期の政治体制	高橋秀直	4
中世末バリ大学における学位取得状況	田中峰雄	4
前漢鏡の編年と様式	岡村秀典	5
近世初期領国貨幣の歴史的役割	中野節子	5
日中両国におけるヘンリー・ジョージの思想の受容	伊原沢周	5
十月革命と穀物価格	梶川伸一	5
摂津源氏一門	元木泰雄	6
「寄田仰穀」考	山本光朗	6
後半期の須惠器	宇野隆夫	6

## 【研究ノート】

安藤昌益研究の展開	三宅正彦	2
ビーカー土器考	宇野隆夫	2
神武伝説の成立	廣畑輔雄	3
中世ナバラ王国のムデハル	尾崎明夫	3
金森寺内町について	小島道裕	4
高句麗長安城の位置と遷都の有無	田中俊明	4
〈試論〉ドイツ三月前期の民衆運動	若原憲和	6

## 【研究動向】

英米における中国中世貴族制研究の成果と課題	ジョン・リ	1
-----------------------	-------	---

## 【書評】

谷川稔著『フランス社会運動史—アソシアシオンとサンディカリズム』	川越修	2
柴田三千雄著『近代世界と民衆運動』	阪上孝	3
藤縄謙三著『歴史学の起源—ギリシア人と歴史』	大戸千之	4
川北稔著『工業化の歴史的前提—帝国とジェントルマン』	見市雅俊	5
Irfan Habib, <i>An Atlas of the Mughal Empire</i>	近藤治	5
藤野保著『日本封建制と幕藩体制』	杉本史子	6

## 【紹介】

A. M. Piemontese, <i>Bibliografia italiano dell'Iran (1462-1984)</i>	羽田正	1
川崎寿彦著『庭のイングランド』	井野瀬久美恵	1
H・C・フライエスレーベン著『航海術の歴史』	合田昌史	3
『かつらぎ町史』古代・中世史料編	平瀬直樹	3
若林喜三郎編『北浜二丁目戸長文書』(大阪市史史料第十一輯)	中塚明	3
佐久間龍著『日本古代僧伝の研究』	本郷真紹	5
中村賢二郎・倉塚平編『宗教改革と都市』	渡邊伸	5
Normann Housley, <i>The Italian Crusades</i>	八塚春児	5
愛媛県史編さん委員会編『愛媛県史』資料編古代・中世	今谷明	6
Alan R. H. Baker, Derek Gregory (eds.), <i>Explorations in Historical Geography: Interpretative Essays</i>	藤田裕嗣	6

## 【訃報】

本会顧問 原随園先生を悼む	西井克己	3
井上智勇先生を偲ぶ	廣實源太郎	4

## 【大会記事】——昭和58年度史学研究会大会講演要旨——

鹿の子遺跡出土の漆紙文書	井上満郎	2
東アジア近世の南北問題	萩原淳平	2

## 第 68 卷 (1985年)

## 【論説】

建久三年「伊勢太神宮領注文」と『神鳳鈔』	稲本紀昭	1
----------------------	------	---

春秋時代の藉田儀礼と公田助法	谷 口 義 介	1
一九〇六年東京の電車賃値上げ反対運動	桂 川 光 正	1
中国東北地方における先史土器の編年と地域性	宮 本 一 夫	2
宝亀年間に於ける僧綱の変容	本 郷 真 紹	2
西晋代宗室諸王の特質	福 原 啓 郎	2
原内閣の成立と総力戦政策	高 橋 秀 直	3
日本の律令国家の「賓礼」	田 島 公	3
中世末期低地地方における穀物取引	奥 西 孝 至	3
サー・レオ・キオザ・マナーの千年王国	見 市 雅 俊	3
アイルランド系移民とイギリス産業革命	富 岡 次 郎	4
幕府—守護体制の変質過程	今 岡 典 和	4
サルターティの人文主義と『僭主論』	石 坂 尚 武	4
後藤新平と植民地経営	小 林 道 彦	5
漢代の市について	佐 原 康 夫	5
「イギリス革命」期、カトリック同盟のアイルランド議会観	山 本 正	5
両大戦間期のドイツ資本主義と自動車工業の位置	西牟田 祐 二	5
上代監喪使考	虎 尾 達 哉	6
春秋時代の結盟習俗について	高 木 智 見	6
サー・ウォルター・ローリーのガイアナ計画	井野瀬 久美恵	6
広東国民政府における政治抗争と蒋介石の抬頭	北 村 稔	6

### 【研究ノート】

エリザベス朝中期の派閥政治	井野瀬 久美恵	1
造東大寺司主典安都雄足の「私経済」	山 本 幸 男	2
領事 中川恒次郎について	山 本 四 郎	2
解放期のフランス共産党	杉 本 淑 彦	3
中世淀津と岩清水神人	田 良 島 哲	4
高句麗長安城城壁石刻の基礎的研究	田 中 俊 明	4

### 【研究動向】

最近の敬虔主義研究	中 谷 博 幸	1
中国史の時代区分問題をめぐって	谷 川 道 雄	6

### 【書 評】

Keith Hopkins, <i>Death and Renewal: Sociological Studies in Roman History Volume 2</i>	南 川 高 志	1
今井宏著『イギリス革命の政治過程』	長 沼 忠 兵 衛	1



## 【紹介】

『新潟県史』資料編中世一・二・三	今岡典和	1
高槻市文化財報告書第一四冊『摂津高槻城 一本丸跡発掘調査報告書一』	小島道裕	1
Noboru Karasima, <i>South Indian History and Society, Studies from Inscription A. D. 850-1800</i>	近藤治	1
R・エンゲルジング著, 中川勇治訳『文盲と読書の社会史』	佐藤卓己	6

## 【大会記事】——昭和59年度史学研究会大会講演要旨——

古代宮都研究の課題	岸俊男	1
中国の初期鉄器と製鉄遺跡	潮見浩	1

## 第 69 卷 (1986年)

## 【論説】

近世の大名諸家における主君「押込」の慣行	笠谷和比古	1
孝経の制作とその背景	渡辺信一郎	1
近代エジプトにおけるサラフィーヤ運動とスーフィズム	古林清一	1
ローマ五賢帝政治の成立	南川高志	2
シュトラースブルク宗教改革運動	渡邊伸	2
畿内の初期瓦生産と工人の動向	菱田哲郎	3
宋代の士人身分について	高橋芳郎	3
明治後半期の渡米熱—アメリカの流行	立川健治	3
西周期鄭(奠)の考察	松井嘉徳	4
公卿議定制から見る院政の成立	美川圭	4
十一世紀ビザンツにおけるイエ・地域社会・皇帝	井上浩一	4
アンジェイ・フリチ=モドジェフスキの國家改革論	小山哲	4
春秋國人考	吉本道雅	5
参議論の再検討	瀧浪貞子	5
一五世紀海事革命とポルトガル	合田昌史	5
帝國議会開設前夜の地価修正運動	今西一	6
清代の移住民社会	山田賢	6
一八世紀南ウクライナの植民とザボロージェ・カザーク	中村仁志	6

## 【研究ノート】

元龜の起請文について	藤田恒春	1
西周後期の代訴記録	木村秀海	2

一五世紀カスティーリャ王国における世俗領主収入と王権	大 内 一	2
瀧川事件の一問題点	松 尾 尊 允	2
漢代における国家財政について	楠 山 修 作	3
紀伊国井上荘絵図の歴史地理学的考察	水 田 義 一	3
ケルンにおける一三九六年の改革	赤 阪 俊 一	5
モンゴルにおける家畜預託の慣行	利 光 有 紀	5
若杉家旧蔵の陰陽書について	村 山 修 一	6

## 【書 評】

青山吉信著『アーサー伝説』	富 沢 靈 岸	2
高橋彦博著『現代政治と社会民主主義』	小 泉 洋	2
阪上孝編『一八四八—国家装置と民衆』	若 原 憲 和	3
奈良国立文化財研究所『木器集成図録』近畿古代編	宇 野 隆 夫	4
今谷明著『室町幕府解体過程の研究』	今 岡 典 和	4
A. F. P. Hulsewé, <i>Remnants of Ch'in Law</i>	榎 山 明	6

## 【紹 介】

今谷明著『戦国三好一族』	小 島 道 裕	1
渡辺金一著『コンスタンティノープル千年—革命劇場』	中 嶋 薫	1
飯島武次著『夏殷文化の考古学研究』	岡 村 秀 典	1
羽曳野市埋蔵文化財調査報告書一〇『古市遺跡群 VI』	仁 木 宏	2
中村廣治郎編『イスラム・思想の営み』	川 本 正 知	2
森茂暁著『南北朝期公武関係史の研究』	美 川 圭	3
江口圭一編著『資料 日中戦争期阿片政策』	伊 藤 之 雄	3
G・G・イッガース著, 中村幹雄・末川清・鈴木利章・谷口健治訳 『ヨーロッパ歴史学の新潮流』	竹 中 亨	3
Hanno Beck, <i>Große Geographen ; Pioniere, Außenseiter, Gelehrte</i>	小 田 匡 保	4
M. J. Webber, <i>Explanation ; Prediction and Planning</i>	松 田 隆 典	4
織田武雄監修『プロレマイオス地理学』	高 橋 正	5
『井波町肝煎文書目録—古文書』	塚 本 明	5
M・クラウル著, 望田幸男・川越修・隈元泰弘・竹中亨・田村栄 子・堤正史訳『ドイツ・ギムナジウム二〇〇年史』	佐 藤 卓 己	6

## 【大会記事】——昭和60年度史学研究会大会講演要旨——

一九一九年一月ナチ党の成立をめぐる	中 村 幹 雄	1
日本とヨーロッパの間	水 津 一 朗	1

## 第70巻(1987年)

## 【論説】

漢代田制考証	佐竹靖彦	1
ライデストス穀物専売政策をめぐって	根津由喜夫	1
「宣伝政党」ドイツ社会民主党と風刺漫画雑誌『真相』	佐藤卓己	1
公田官物率法の成立とその諸前提	勝山清次	2
フランス啓蒙思想とレシチンスキの役割	中山昭吉	2
ブルクハルトとギリシア史	仲手川良雄	3
中世民衆の葬制と死穢	勝田至	3
美濃国池田郡の条里	足利健亮・金田章裕・田島公	3
清朝辺民制度の成立	松浦茂	4
シュトラースブルク宗教改革の展開	渡邊伸	4
フランスにおける一九四七年十一月一十二月ストライキの挫折	杉本淑彦	4
近世中期京都の都市構造の転換	塚本明	5
タバコ植民地経済の展開	和田光弘	5
七月王政期の自由正統王朝派とナシオン	上垣豊	5
清代湖広の水稲作と棉業	山本進	6
乾隆時代の一広域犯罪事件と国家の対応	谷井俊仁	6
後北条氏領国における流通圏と流通システム	藤田裕嗣	6

## 【研究ノート】

古礼からみた内裏儀式の成立	西本昌弘	2
織豊系城郭の構造	千田嘉博	2
十八世紀のフランス領西インドとアメリカ貿易	服部春彦	2
「山家集」に見る山岳聖域大峰の構造	小田匡保	3
中世菅浦における村落領域構成	太田浩司	4
世紀転換期におけるギムナジウムと教養市民層	望田幸男	5
「雍正篡位」再論	楊啓樵	6

## 【史料紹介】

『駒井日記』と駒井重勝	藤田恒春	1
-------------	------	---

## 【資料紹介】

美濃各務原市採集の戦国期土師器	宇野隆夫	3
滋賀県雪野寺跡の測量調査	岡村秀典・菱田哲郎	4

## 【書評】

石田浩著『中国農村社会経済構造の研究』	川井悟	3
佐藤次高著『中世イスラム国家とアラブ社会』	菟原卓	3
小林健太郎著『戦国城下町の研究』	小島道裕	4
青山吉信・木村尚三郎・平城照介編『西欧前近代の意識と行動』	富澤靈岸	4
鈴木良著『近代日本部落問題研究序説』	今西一	5
渡辺信一郎著『中国古代社会論』	葭森健介	5
坂本賞三編『王朝国家国政史の研究』	古藤真平・佐藤泰弘・前田禎彦	6

## 【紹介】

若尾祐司著『ドイツ奉公人の社会史』	佐々木博光	1
西弘海著『土器様式の成立とその背景』	菱田哲郎	1
スエトニウス著、国原吉之助訳『ローマ皇帝伝』	南川高志	2
森本芳樹編『西欧中世における都市と農村』	服部良久	3
上島有編著『東寺文書聚英』	伊藤俊一	4
川北稔編『「非労働時間」の生活史』	佐久間亮	4
藤木久志著『戦国の作法』	橋本道範	5
北岡伸一著『清沢汎』	伊藤之雄	5
松井透著『イギリス支配とインド社会』	本田毅彦	6
神戸大学文学部日本史研究室編『中川家文書』	熱田公	6

## 【訃報】

本会顧問 貝塚茂樹博士訃	永田英正	3
--------------	------	---

## 【大会記事】——昭和61年度史学研究会大会講演要旨——

楊守敬と日本人書家との交流	杉村邦彦	1
ラシード・ウッディーンの『集史』について	本田實信	1

## 第71巻(1988年)

## 【論説】

太平天国期のチワン族反乱とその背景	稲田清一	1
「氏爵」の成立	田島公	1
イングランド宗教改革期の教区聖職者	指昭博	1
一六世紀初頭のヘラート	久保一之	1
唐宋時代の短陌と貨幣経済の特質	宮澤知之	2
コンスタンティノープル三三〇年	栗本薫	2

器財埴輪の編年と古墳祭祀	高橋克壽	2
ビザンツ貴族と皇帝政権	根津由喜夫	3
中世の屋敷墓	勝田至	3
ギルデット・エイジにおける移民労働者の世界	松本悠子	3
民主党成立の序幕	三川譲二	3
奈良時代の宣	吉川真司	4
ヴィクトリア時代の労働者と自伝	佐久間亮	4
メンシェヴィキ党とロシア共産党	尼川創二	4
上シンド盛期ハラッパー以前の土器	徐朝龍	4
古典期アテネのフラトリア	伊藤貞夫	5
清代前期の平糶政策	山本進	5
全関西婦人連合会の構造と特質	藤目ゆき	5
政権参加期フランス共産党の植民地構想	杉本淑彦	5
清代備考	黒田明伸	6
一八八〇年代の朝鮮問題と国際政治	高橋秀直	6
史記述春秋経伝小考	吉本道雅	6
憎まれた賢帝ハドリアヌス	南川高志	6

### 【研究ノート】

米騒動鎮圧の出兵規模	松尾尊兌	1
ジーマンス社の東京電灯への融資計画	竹中亨	2

### 【資料紹介】

右金吾衛將軍勿部珣の功德記について	小野勝年	3
丁瓢塚古墳測量調査報告	岸本直文	6

### 【書評】

西山克著『道者と地下人』	仁木宏	2
Tom Scott, <i>Freigurg and the Breisgau</i>	渡邊伸	3
熊野聡著『北欧初期社会の研究』	服部良久	4
ジョフロワ・ド・ヴィルアルドゥワン著、伊藤敏樹訳・註 『コンスタンチノーブル征服記』	八塚春児	5
Janusz Tazbir, <i>Szlachta i teologowie</i>	小山哲	6

### 【紹介】

Reginald George Golledge and Robert J. Stimson, <i>Analytical Behavioural Geography</i>	小長谷一之	2
佐原真著『日本人の誕生』体系日本の歴史1	千葉豊	3

龍ヶ崎市教育委員会編『龍ヶ崎市史別編Ⅱ・龍ヶ崎の中世城郭跡』	竹田和夫	3
荻野三七彦編著『「大乘院文書」の解題的研究と目録』	小葉田淳	4
京都部落史研究所編『京都の部落史』史料近代編	鈴木栄樹	4
リチャード・J・エヴァンズ編、望田幸男・若原憲和訳 『ヴィルヘルム時代のドイツ』	山本秀行	4
半一之編著『青海民族史入門』	若松寛	5
新宿区教育委員会編『新宿区地図集』・『地図で見る新宿区の 移り変わり』	内田忠賢	5

## 【訃報】

中原与茂九郎名誉教授訃	山本茂	4
-------------	-----	---

## 【大会記事】——昭和62年度史学研究会大会講演要旨——

平城遷都と慶雲三年格	鎌田元一	1
歴史と世代——イギリス・ルネサンス考——	越智武臣	1

## 第72巻(1989年)

## 【論説】

畿内弥生土器の推移と画期	桑原久男	1
ヴェトナム黎明初期の南策勢力	八尾隆生	1
ウィリアム・J・ブライアンのニカラグア政策	杉山茂	1
督捕則例の成立	谷井俊仁	2
アウクスブルク市の二信仰派並存体制	永田諒一	2
初現期の青銅彝器	難波純子	2
ニザーム家のワクフと一四世紀のヤズド	岩武昭男	3
一八六八年の天皇誕生日の祝祭	井上勝生	3
一八世紀フランスのコレージュ改革とパリ高等法院	天野知恵子	3
ジャー・ラマとコブド問題	生駒雅則	3
周王子弟の封建	松井嘉徳	4
七月王政期の自由正統主義	上垣豊	4
神戸居留地の都心への発達過程	尹正淑	4
三角縁神獸鏡製作の工人群	岸本直文	5
壬午事変後の朝鮮問題	高橋秀直	5
宗族の形成とその構造	井上徹	5
「聖人伝」に現れる砂漠の苦行僧	足立広明	5
ドイツ騎士修道会とプロイセン人	佐々木博光	6

京進米と都城	寺内 浩	6
渤海の交通路と五京	河上 洋	6
縁帯文系土器群の成立と展開	千葉 豊	6

## 【研究ノート】

島貫兵太夫と力行会	立川 健治	1
紅山文化の所属馬蹄形玉箍について	林 巳奈夫	2
ビザンツ皇帝権と皇帝批判	フランツ・ティンネフェルト, 小田謙爾訳	4

## 【書評】

堀敏一著『中国古代の身分制——良と賤——』	榎山 明	1
中屋健一著『新 米国史』	志 邨 晃 佑	1
Jahnathan Riley-Smith, <i>The First Crusade and the Idea of Crusading</i>	八塚 春 児	2
木下良著『国府 その変遷を主にして』	南 出 真 助	2
ホルツバータル著『哈騰根十三家神祭祀』 qatagin arban γurban atay-a tegri-yin tayily-a	利 光 有 紀	2
富岡次郎著『現代イギリスの移民労働者 ——イギリス資本主義と人種差別——』	中 山 章	3
伊藤之雄『大正デモクラシーと政党政治』	永 井 和	4
中山章著『イギリス労働貴族』	佐久間 亮	4
関斗基編『中国国民革命 指導者の思想と行動』	森 悦 子	5
川口博編『伝統と近代——西洋近代史の再検討——』	瀬 原 義 生	5
川越修著『ベルリン 王都の近代——初期工業化・ 一八四八年革命——』	北 村 昌 史	6
宇野隆夫著『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』	高 橋 照 彦	6

## 【紹介】

藤井和夫著『ポーランド近代経済史——ポーランド王国における 繊維工業の発展（一八一五—一八九四年）』	小 山 哲	6
福井市編集・発行『福井市史 資料編別巻 絵図・地図』	矢 守 一 彦	6

## 【訃報】

小林行雄博士訃	小野山 節	3
---------	-------	---

## 【大会記事】——昭和63年度史学研究会大会講演要旨——

旧石器時代の「住」	山 中 一 郎	1
カペイラの水車と淀の水車	末 尾 至 行	1

## 第73巻（1990年）

## 【論説】

一八八〇年代英領インドにおける植民地官僚制改革問題について	本 田 毅 彦	1
一国平均役の確立過程	上 島 享	1
植民地期ジャワ・マツラにおけるデサ首長「自由選挙」をめぐる	植 村 泰 夫	1
黄震の広徳軍社倉改革	戸 田 裕 司	1
社会主義者鎮圧法下のメディア環境と社会主義大衆機関誌の起源	佐 藤 卓 己	2
末期における鎌倉幕府訴訟制度の実態	古 澤 直 人	2
春秋齊霸考	吉 本 道 雅	2
新連邦主義におけるアメリカ連邦権力	今 津 晃	3
ドイツ三月革命前後の労働諸階級福祉中央協会	北 村 昌 史	3
社会大衆党の国家社会主義的画一化と小市民	小 泉 洋	3
書札様文書の礼紙について	上 島 有	4
北朝隋唐時代における胡族の通婚関係	長 部 悦 弘	4
近代英国のレヴァント貿易	川 分 圭 子	4
改票考	谷 井 俊 仁	5
蒙古襲来と鎌倉幕府	南 基 鶴	5
ワルシャワ連盟協約の成立	小 山 哲	5
殷墟前半期の青銅彝器の編年と流派の認識	難 波 純 子	6
戸部と戸部則例	谷 井 陽 子	6
一九四五年フランス国民の帝国意識	杉 本 淑 彦	6

## 【研究ノート】

戦間期大阪に於ける「接客婦」とその運動	藤 目 ゆ き	2
源有仁編の儀式書の伝来とその意義	田 島 公	3
紀元後のエリュマイス王国	春 田 晴 郎	3
尺振八の共立学舎創立と福沢諭吉	鈴 木 栄 樹	4
最近のロシア農民史研究について	梶 川 伸 一	4
良渚文化と大汶口文化の図象記号	林 巴 奈 夫	5
江戸人の不思議の場所	内 田 忠 賢	6

## 【書評】

S・ランシマン著、和田廣訳『十字軍の歴史』	八 塚 春 児	1
藤縄謙三著『歴史の父ヘロドトス』	仲 手 川 良 雄	2
野田宣雄著『教養市民層からナチズムへ』	谷 口 健 治	2



吉岡康暢著『日本海域の土器・陶磁〔中世編〕』	宇野隆夫	3
辻本雅史著『近世教育思想史の研究』	藤本雅彦・桂島宣弘	5
中村幹雄著『ナチ党の思想と運動』	原田一美	5
J. Wilkinson, J. Hill and W. F. Ryan eds., <i>Jerusalem Pilgrimage, 1099-1185</i>	小田匡保	5
井野瀬久美恵著『大英帝国はミュージック・ホールから』	佐久間亮	6

## 【紹介】

カルロ・M・チボラ著, 日野秀逸訳『ペストと都市国家』	高田京比子	1
鹿野政直著『「鳥島」は入っているか』	西山伸	2
David Carpenter, <i>The Battles of Lewes and Evesham 1264/65</i>	朝治啓三	2
ディミータル・アンゲロフ著, 寺島憲治訳『異端の宗派 ボゴミール』	足立広明	4
清水廣一郎著『中世イタリアの都市と商人』	山邊規子	5
川越修・原田一美・姫岡とし子・若原憲和編 『近代を生きる女たち』	北村昌史	6

## 【訃報】

羽田明先生を偲ぶ	間野英二	2
----------	------	---

## 【大会記事】——平成元年度史学研究会大会講演要旨——

古代シュメールの社会経済史	前川和也	1
六朝時代の名望家支配について	谷川道雄	1

## 第74巻(1991年)

## 【論説】

フーゴ・プロイスとプロイセン＝ドイツの行政改革	野村耕一	1
近世ドイツ国制と帝国クライス制度	渋谷聡	1
朝鮮半島錦江下流域の三国時代墓制	吉井秀夫	1
南京政府時期の技術官僚の形成と発展	石川禎浩	2
文章得業生試の成立	古藤真平	2
伝クセノフォン『アテナイ人の国制』の成立年代	仲手川良雄	2
ロマノス三世アルギュロスの蹉跌	根津由喜夫	2
現代中国農村の生活空間	小島泰雄	3
二三年のローマ帝国	南川高志	3
帝国都市と手工業	谷口健治	3

インダス文明起源の問題	徐朝龍	3
『歴年図』と『通志』	稲葉一郎	4
古代国家における馬の利用と牧の変遷	吉川敏子	4
不可侵条約をめぐる満州事変前後のソ日関係	寺山恭輔	4
ロレンツォ・ヴァッラの人文主義と『快樂論』	石坂尚武	5
西周冊命金文考	吉本道雅	5
日本統治下の朝鮮における警察機構の改編	松田利彦	5
メトロポリスの誕生とアメリカ労働者階級	竹田有	5
古墳時代仿製鏡の変遷とその特質	森下章司	6
近世武家官位制の成立過程について	李啓煌	6
労働攻勢と進歩党少壮派	三川譲二	6
秦の墓制とその起源	黄曉芬	6

### 【研究ノート】

漢長安城未央宮三号建築遺址について	佐原康夫	1
一八九八年のタブリーズにおけるパン騒動	岡崎正孝	1
中国古代における日の暈と神話的図象	林巳奈夫	4
唐代における飛龍廐と飛龍使	趙雨楽	4
高昌国の侍郎について	關尾史郎	5
公卿議定制の類型とその性格	美川圭	6

### 【書評】

谷川稔他著『規範としての文化』	上垣豊	1
北陸古代手工業生産史研究会『北陸の古代手工業生産』	菱田哲郎	2
藤井諒治著『江戸幕府老中制形成過程の研究』	藤田恒春	3
越智武臣著『近代英国の発見』	井野瀬久美恵	3
松尾尊発著『普通選挙制度成立史の研究』	三谷太郎	5

### 【紹介】

小葉田淳監修・福井県（総務部県史編纂課）編『福井県史』 史料編16上 絵図・地図	足利健亮	1
峯岸賢太郎著『近代に残った習俗的差別』	横井敏郎	4
ペーター・ブリックレ著、服部良久訳『ドイツの臣民』	佐々木博光	5
井上浩一著『生き残った帝国ビザンティン』	根津由喜夫	6
ジェフリー・ハーフ著、中村幹雄・谷口健治・姫岡とし子訳 『保守革命とモダニズム』	野村耕一	6

## 【大会記事】——平成2年度史学研究会大会講演要旨——

全国産業復興法とニューディール	紀平英作	1
十五年戦争とアヘン	江口圭一	1

## 第75巻（1992年）

## 【論説】

近代日本の青年団体	飯塚一幸	1
桓温から謝安に至る東晋中期の政治	金民壽	1
都市国家ヴェネツィアにおける貴族の親族集団	高田京比子	2
受領考課制度の成立と展開	寺内浩	2
征韓論政変と朝鮮政策	高橋秀直	2
日清戦後の大陸政策と陸海軍	小林道彦	2
中立法定における「孤立主義者」とローズヴェルト政権の対応	山澄亨	3
元代華北のモンゴル軍団長の家系	堤一昭	3
権務官禄を通じてみた高麗時代の権務職	崔貞煥	3
中世都市大山崎の展開と寺院	仁木宏	3
アメリカ連邦権力と人権問題	今津晃	4
一九三六年ロスアンジェルス・セロリ・ストライキと 日系農業コミュニティ	松本悠子	4
成功制の展開	上島享	4
南詔国後半期の対外遠征と国家構造 “義役”	林謙一郎	4
平安時代の国の検田	伊藤正彦	5
清代粵海関の徴税機構	佐藤泰弘	5
一九世紀イギリスの売官制	岡本隆司	5
ヌーリー家とカージャール朝初期のファールス地方	村岡健次	5
清代後期四川における地方財政の形成	長谷川久美	6
世界分割の科学と政治	山本進	6
山東竜山文化の編年と類型	合田昌史	6
	李権生	6

## 【研究ノート】

天孫降臨神話について	安藤美紀	1
帝国の中のニューファンドランド	和田光弘	1
陳垣と桑原隲蔵	竺沙雅章	4
ジョルジュ・オーブトの生涯・研究・方法論	山内昭人	5
柳田国男と橋浦泰雄	鶴見太郎	6

## 【書評】

本田実信著『モンゴル時代史研究』	勝 藤 猛	1
川北稔著『民衆の大英帝国—近世イギリス社会とアメリカ移民—』	秋 田 茂	1
Steven Tibble, <i>Monarchy and Lordships in the Latin Kingdom of Jerusalem, 1099-1291</i>	八 塚 春 児	1
今西一著『近代日本成立期の民衆運動』	山 田 達 夫	2
中山昭吉著『近代ヨーロッパと東欧—ポーランド啓蒙の国際関係史的研究—』	小 山 哲	3
五味文彦著『中世のことばと絵—絵巻は訴える』	美 川 圭	4
瀧浪貞子著『中世古代宮廷社会の研究』	虎 尾 達 哉	6

## 【紹介】

Wieland Wagner, <i>Japans Außenpolitik in der frühen Meiji-Zeit (1868-1894)</i>	竹 中 亨	1
---	-------	---

## 【大会記事】——平成3年度史学研究会大会講演要旨——

一三世紀以降—一七世紀にいたる明国・女真・朝鮮間の国際関係	河 内 良 弘	3
奈良時代瓦工場の構造	上 原 真 人	3

## 第76巻（1993年）

## 【論説】

「詞章之学」から「輿地之学」へ	大 澤 顯 浩	1
漢代居延における軍政系統と県との関わりについて	角 谷 常 子	1
北朝時代の武人官僚問題	長 部 悦 弘	1
ローマ元首政期におけるフィスクスの性格と元首	米 田 利 浩	1
地主的土地所有の空間的展開と明治地方自治制	山 崎 孝 史	2
平安京における居住と家族	京 楽 真 帆子	2
「野蠻」の「改革」	山 本 正	2
高麗睿宗期における意思決定の構造	矢 木 毅	2
一八一—九世紀転換期のウィッグと非国教徒	川 分 圭 子	3
戦国大名尼子氏権力の形成	長谷川 博 史	3
春秋晋霸考	吉 本 道 雅	3
「火耕水耨」再考	福井捷朗・河野泰之	3
元末明初期における徽州府下の貨幣動向	大 田 由 紀夫	4
前四世紀アテナイの親族関係	栗 原 麻 子	4
立券荘号の成立	佐 藤 泰 弘	5

征韓論政変の政治過程	高橋秀直	5
饗登=帝説補論	林巴奈夫	5
銅剣生産の展開	吉田広	6
ドイツ中世都市における「公共の福利」理念	田中俊之	6
慶長の役後の国際関係	李啓煌	6
一九世紀ドイツにおける住宅改革構想の変遷	北村昌史	6

### 【研究ノート】

南陽瓦房荘漢代製鉄遺跡の技術史的検討	佐原康夫	1
十六夜日記「波の上」試論	藤本孝一	3
中国護法政府の大韓民国臨時政府正式承認問題について	森悦子	4
サムナー・ウェルズと一九三〇年代のアメリカ外交	山澄亨	4
一九一〇年長沙大搶米の「鎮圧」と電信	石川禎浩	4
現代南仏丘上集落の「ルネッサンス」	滝波章弘	5
吉田・エバーツ協定の一考察	山本四郎	6

### 【資料紹介】

冑か冠か	高橋克壽	2
カルティニの著作と追悼記事について	富永泰代	4

### 【書評】

山本四郎編『近代日本の政党と官僚』	佐々木克	1
森田安一著『スイス中世都市史研究』	田中俊之	2
井野瀬久美恵著『子どもたちの大英帝国——世紀末、フーリガン登場』	川分圭子	2
岡本明著『ナポレオン体制への道』	山崎耕一	3
竹中亨著『ジューメンスと明治日本』	落合弘樹	3

### 【紹介】

藤田恒春校訂『増補駒井日記』	藤井讓治	4
Noboru Karashima, <i>Towards a New Formation: South Indian Society under Vijayanagar Rule</i>	近藤治	5
畑中敏之著『「部落史」を問う』	跡部信	5

### 【大会記事】——平成4年度史学研究会大会講演要旨——

聖者の墓を見つける話	浜田正美	2
世界史の青年時代としてのギリシア	藤縄謙三	2

## 第77巻（1994年）

## 【論説】

元老制度再考	伊藤之雄	1
教皇インノケンティウス四世の政治理論における教皇権と世俗権 「ラヴァルのヴィシー」と世俗的教師	尾崎秀夫	1
訟師秘本『蕭曹遺筆』の出現	平野千果子	1
一九世紀前半のバイエルン王国における営業制度	夫馬進	2
清代前期食糧暴動の行動論理	谷口健治	2
幕末期の幕府の朝鮮政策と機構の変化	堀地明	2
一六世紀ポーランドにおけるテオクラシー的国家観	沈箕載	2
戦後アメリカ合衆国の中東産油国政策	小山哲	3
平沼内閣運動と斎藤内閣期の政治	小野沢透	3
縦目仮面, 「燭龍」と「祝融」	堀田慎一郎	3
弥生時代における地方間交流	徐朝龍	4
柳田民俗学と東大新人会	伊藤淳史	4
漢墓の変容	鶴見太郎	4
唐代の觀察処置使について	黄暁芬	5
清代後期湖広における財政改革	鄭炳俊	5
清末粵海関の展開	山本進	5
前五世紀ギリシアの歴史家と神託	岡本隆司	6
平安初期における鉛釉陶器生産の変質	青木千佳子	6
中国共産党の党内民主主義	高橋照彦	6
	江田憲治	6

## 【研究ノート】

高麗王言考	矢木毅	1
吉野山村における近世前期の耕地経営	米家泰作	1
順治時代政治史試論	谷井俊仁	2
倭寇及び被虜人と明海防軍	川越泰博	3
『広輿記』の明版について	大澤顕浩	3
ドイツ初期敬虔主義思想の再検討	中谷博幸	4
「地方測量之圖」小考	山崎孝史	4
ブライドウェル矯正院の内と外	乳原孝	5
四神の一, 朱鳥について	林巳奈夫	6

## 【書評】

- |  |               |   |
|--|---------------|---|
| 高山博著『中世地中海世界とシチリア王国』   | 山邊規子          | 1 |
| 中塚明著『近代日本の朝鮮認識』  | 藤永 壮          | 1 |
| 今西一著『近代日本の差別と村落』   | 富山一郎          | 2 |
| 國方敬司著『中世イングランドにおける領主支配と農民』   | 朝治啓三          | 2 |
| 小川晃一著『英国自由主義体制の形成——ウィッグと<br>ディセンター——』                                    | 川分圭子          | 2 |
| 佐藤卓己著『大衆宣伝の神話——マルクスからヒトラーへの<br>メディア史——』                                  | 飯田収治          | 3 |
| 前川和也編著『家族・世帯・家門——工業化以前の世界から——』   | 中村敦子          | 3 |
| 大戸千之著『ヘレニズムとオリエント——歴史の中の<br>文化変容——』                                      | 春田晴郎          | 4 |
| 藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』   | 栗原麻子・小林功・桑田由文 | 4 |
| 森田安一著『ルターの首引き猫』  | 渡邊 伸          | 4 |
| 山田欣吾著『西洋中世国制史の研究Ⅰ 教会から国家へ<br>——古相のヨーロッパ』『西洋中世国制史の研究Ⅱ<br>国家そして社会——地域史の視点』 | 佐々木 博 光       | 5 |
| 関口裕子著『日本古代婚姻史の研究』上・下   | 山本 一 也        | 5 |
| 小島晋治・並木頼寿編『近代中国研究案内』   | 飯島 涉          | 6 |

## 【紹介】

- |   |      |   |
|---|------|---|
| ブロニスワフ・ゲレメク著、早坂真理訳『憐れみと縛り首<br>——ヨーロッパ史の中の貧民——』                | 田中俊之 | 2 |
| チャールズ・E・マクレランド著、望田幸男監訳『近代ドイツの<br>専門職——官吏・弁護士・医師・聖職者・教師・技術者——』 | 佐藤卓己 | 3 |

## 【大会記事】——平成5年度史学研究会大会講演要旨——

- |            |       |   |
|------------|-------|---|
| 文学空間における都市 | 高橋 正  | 1 |
| 宋元文化の北流    | 竺沙 雅章 | 1 |

## 第78巻（1995年）

## 【論説】

- |                          |       |   |
|--------------------------|-------|---|
| 一九世紀中葉におけるケルン市議会選挙と市民層   | 棚橋 信明 | 1 |
| 近世ドイツ帝国における政治的意思形成の原理と構造 | 渋谷 聡  | 1 |
| 清代の華北農村における青苗会について       | 小田 則子 | 1 |
| 八・九世紀伊勢神郡再編成過程と領域性       | 堀 健彦  | 1 |

アングロ＝ノルマン王国における貴族	中 村 敦 子	2
ミカエル三世と「従者団」	小 林 功	2
八・九世紀の内裏任官儀と可任人歴名	西 本 昌 弘	2
津浦鉄道釐金局の廃止と復活	林 原 文 子	2
公家領安堵の変遷	金 井 静 香	3
秦史研究序説	吉 本 道 雅	3
一八世紀オランダ都市の居住パターン	大 西 吉 之	3
奈良時代の土地管理と小字地名的名称	金 田 章 裕	4
古典期アテナイにおけるフィリアと共同体	栗 原 麻 子	4
尚書の銓衡の成立	佐 藤 達 郎	4
明代の柴薪銀について	伍 躍	4
一九世紀フランスの貴族と近代国家	上 垣 豊	4
一八世紀のロンドン商人ボウズンキット家の事業展開	川 分 圭 子	5
楚墓から漢墓へ	黄 暁 芬	5
一九世紀イギリスにおける新救貧法と地域社会	小 島 崇	5
李璵の乱後の漢人軍閥	堤 一 昭	6
日本統治下の朝鮮における憲兵警察機構（一九一〇～一九一九年）	松 田 利 彦	6
ブルクハルトとドイツ諸大学における歴史学教育	森 田 猛	6

### 【研究ノート】

「九・一八」事変直後における瀋陽の政治状況	澁 谷 由 里	1
中世イスラム世界における都市内の穀物流通	村 田 靖 子	3
前近代アイヌの「宝」とその社会的機能	岩 崎 奈 緒 子	5
宋代の流刑と刑罰	辻 正 博	5
良渚文化玉器の彫刻技術	林 巳 奈 夫	5
南宋期鎮江府の秋苗米と原額	長 井 千 秋	6
一三世紀前半における教皇の対ムワッヒド朝政策	尾 崎 秀 夫	6

### 【研究動向】

中世イタリアにおける支配層の家と都市農村関係	高 田 京 比 子	3
------------------------	-----------	---

### 【書評】

永井三明著『ヴェネツィア貴族の社会』	田中俊之・藤内哲也	2
豊田浩志著『キリスト教の興隆とローマ帝国』	新 田 一 郎	2
関西中世史研究会編『西洋中世の秩序と多元性』	轟 木 広 太 郎 他	3
豊永泰子著『ドイツ農村におけるナチズムへの道』	中 村 幹 雄	5
Peter W. Edbury, <i>The Kingdom of Cyprus and the Crusades, 1191-1374</i>	桜 井 康 人	6



三谷太一郎著『新版・大正デモクラシー論』	伊藤之雄	6
----------------------	------	---

## 【紹介】

上横手雅敬監修、井上満郎・杉橋隆夫編集『古代・中世の政治と文化』	大村拓生	1
ピエール・グリマル著、沓掛良彦・土屋良二訳『ローマの愛』	今川真紀	5

## 【訃報】

宮崎市定博士訃	永田英正	4
---------	------	---

## 【大会記事】——平成6年度史学研究会大会講演要旨——

「ローマの平和」考	新田一郎	1
知られざる吉野作造	松尾尊兌	1

## 第79巻（1996年）

## 【論説】

日清戦後の地方制度改革	飯塚一幸	1
明末、地方官の人事異動と地方輿論	車惠媛	1
——三世紀のハラブにおけるウラマー三家系	谷口淳一	1
『商君書』の歴史的位置	柴田昇	1
元首政期ローマ帝国における近衛長官職の確立	桑山由文	2
中世スウェーデンにおける代表制集会和農民	根本聡	2
東亜青年連盟（アシャルーゲー）の成長とビルマ独立への影響	武島良成	2
中国トロツキー派の生成、動態、及びその主張	菊池一隆	2
——四世紀末——六世紀初頭エジプトの大カーディーとその有力家系	伊藤隆郎	3
清代後期直隸・山東における差徭と陋規	山本進	3
戦間期における採炭機構の合理化と労働指揮権	鮎川伸夫	3
律令国家陵墓制度の基礎的研究	北康宏	4
社会大衆党の国家社会主義と国際政策	及川英二郎	4
仁和寺御室考	横内裕人	4
ソロン、詩と政治	芝川治	4
有孔玉、石斧をめぐって	林巳奈夫	5
畿内と古代国家	吉川聡	5
居延漢簡劾状関係冊書の復元	鷹取祐司	5
九世紀前半ビザンツにおける皇帝権力	小林功	5

神功皇后伝説と近世日本の朝鮮観	塚本明	6
漢代察挙制度の位置	佐藤達郎	6
版籍奉還前後の朝鮮政策と外務省（佐田）調査団の朝鮮派遣	沈箕載	6
武周時期の御史台について	胡宝華	6

### 【研究ノート】

清末における相続問題について	西川真子	1
長門国府周辺施設の歴史地理学的考察	門井直哉	2
中世聖教史料論の試み	上川通夫	3
古代蜀國史研究の新視点	徐朝龍	3
インノケンティウス四世における教皇権	尾崎秀夫	6

### 【研究動向】

第一回十字軍召集の研究史的考察	八塚春児	4
-----------------	------	---

### 【書評】

田中文英著『平氏政権の研究』	元木泰雄	1
神野清一著『日本古代奴婢の研究』	吉野秋二	3
松田利彦著『戦前期の在日朝鮮人と参政権』	外村大	3
東晋次著『後漢時代の政治と社会』	小川由記	4
若尾祐司著『近代ドイツの結婚と家族』	姫岡とし子	5
川口博著『身分制国家とネーデルランドの反乱』	桜田美津夫	5
高橋秀直著『日清戦争への道』	伊藤之雄	6
星野秀利著、齊藤寛海訳『中世後期フィレンツェ毛織物工業史』	高田京比子	6

### 【紹介】

日本国際地図学会編『日本主要地図集成——明治から現代まで』	船越昭生	1
-------------------------------	------	---

### 【訃報】

水津一朗先生を偲ぶ	石原潤	5
-----------	-----	---

### 【大会記事】——平成7年度史学研究会大会講演要旨——

ガンダーラ美術に関する最近の発掘成果	小谷仲男	2
一上級武士の十七世紀	朝尾直弘	2

## 第80巻(1997年)

## 【論説】

ポーランド「人民政権」の支配確立と民族的再編	吉岡潤	1
『熊谷家伝記』にみる開発定住と空間占有	米家泰作	1
合衆国労働党に関する一考察	中野耕太郎	1
民本主義論の終焉と二大政党論の改造	小関素明	1
サファヴィー朝支配下の聖地マシュハド	守川知子	2
中世鎌倉の都市空間構造	山村亜希	2
唐代の文官人事	松浦典弘	2
垂加派知識人による正統性の生産	小林准士	3
一九〇五年バクーの労働運動と民族衝突	伊藤順二	3
産業民主制, 科学的管理, ワーカーズ・コントロール	竹田有	3
フランス革命期ルーアンの民衆協会	竹中幸史	4
近世ロンドンの教区	宮川剛	4
浙川下寺春秋楚墓考	山田崇仁	4
中世中国における地獄と獄訟	朴永哲	4
イサキオス一世とコンスタンティノス十世の治世をめぐって	根津由喜夫	5
近世初頭のヴェネツィアにおける書記局官僚層の形成とその意義	藤内哲也	5
ネルチンスク条約直後清朝のアムール川左岸調査	松浦茂	5
銀と石油	杉山茂	5
漢代の裁判文書「爰書」	鷹取祐司	6
中世ニュルンベルクの都市貴族と名誉	田中俊之	6

## 【研究ノート】

唐前期の仏教政策について	蘇瑶崇	2
近世都市における所帯	谷口健治	3
山本一也氏による拙著『日本古代婚姻史の研究』上・下への書評に答える	関口裕子	4
ビルマ・ラカイン地域の反植民地運動	武島良成	6

## 【研究動向】

中世初期スウェーデン社会の一局面	角谷英則	5
------------------	------	---

## 【書評】

杉本淑彦著『文明の帝国』	平野千果子	1
--------------	-------	---

田中峰雄著『知の運動—十二世紀ルネサンスから大学へ—』	小田内 隆	2
Raymonde Monnier, <i>L'Espace public démocratique.</i> <i>Essai sur l'option à Paris de la Révolution au Directoire</i>	竹 中 幸 史	2
永井和著『近代日本の軍部と政治』	高 橋 秀 直	2
朝治啓三・江川温・佐藤彰一・服部良久・早川良弥編著『西欧中世史』[上][中][下]	村 瀬 直 志	2
末川清著『近代ドイツの形成—「特有の道」の起点—』	北 村 昌 史	2
南川高志著『ローマ皇帝とその時代—元首政期ローマ帝国政治史の研究』	米 田 利 浩	2
Michael Weiner, <i>The Origins of the Korean Community in Japan, 1910-1923; Race and Migration in Imperial Japan</i>	松 田 利 彦	3
堀和生著『朝鮮工業化の史的分析』	松 本 俊 郎	4
美川圭著『院政の研究』	井 原 今朝男	6
加藤陽子著『徴兵制と近代日本』	遠 藤 芳 信	6

### 【紹 介】

守山記生著『北フランス・ベルギー中世都市研究』	佐 藤 公 美	1
樺山紘一著『西洋中世像の革新』	青 谷 英 紀	1
井上浩一著『ビザンツ皇妃列伝—あこがれの都に咲いた花—』	根 津 由喜夫	3
佐治家文書研究会編『佐治重賢氏所蔵『小堀政一関係文書』』	杣 田 善 雄	5

### 【訃 報】

柴田実先生を悼む	上 横 手 雅 敬	4
----------	-----------	---

### 【大会記事】——平成8年度史学研究会大会講演要旨——

型式学と写実的表現	小 野 山 節	2
王権と東方への道	原 秀 三 郎	2

## 著者名索引

## ア

青木千佳子 77-6  
 青木芳夫 61-4, 61-6, 63-2, 64-4  
 青谷秀紀 80-1  
 阿河雄二郎 61-3, 64-2  
 赤阪俊一 69-5  
 秋田茂 75-1  
 秋山元秀 62-1  
 朝尾直弘 62-1, 79-2  
 朝治啓三 61-1, 61-3, 62-2, 62-2,  
 63-4, 64-1, 73-2, 77-2  
 足利健亮 70-3, 74-1  
 足立啓二 61-1, 64-4  
 足立広明 72-5, 73-4  
 熱田公 70-6  
 跡部信 76-5  
 尼川創二 62-3, 66-1, 71-4  
 天野知恵子 72-3  
 余部福三 66-6  
 鮎川伸夫 79-3  
 有光教一 66-4  
 安藤美紀 75-1

## イ

李啓煌 74-6, 76-6  
 飯島涉 77-6  
 飯田収治 77-3  
 飯塚一幸 75-1, 79-1  
 生駒雅則 72-3  
 石川義孝 62-3  
 石川禎浩 74-2, 76-4  
 石坂尚武 68-4, 74-5  
 石田浩 63-5  
 石田善人 63-4  
 石原潤 79-5  
 伊藤淳史 77-4

伊藤貞夫 71-5  
 伊藤俊一 70-4  
 伊藤順二 80-3  
 伊藤隆郎 79-3  
 伊藤正彦 75-5  
 伊藤之雄 63-5, 66-4, 69-3, 70-5,  
 77-1, 78-6, 79-6  
 稲田清一 71-1  
 稲葉一郎 74-4  
 稲本紀昭 68-1  
 井上勝生 66-5, 72-3  
 井上浩一 61-2, 62-4, 65-5, 69-4  
 井上徹 65-5, 72-5  
 井上満郎 67-2  
 井野瀬久美恵 67-1, 68-1, 68-6, 74-3  
 井原今朝男 80-6  
 伊原沢周 67-5  
 今岡典和 63-5, 66-4, 68-1, 68-4,  
 69-4  
 今川真紀 78-5  
 今谷明 62-3, 62-5, 63-6, 67-6  
 今津晃 64-1, 73-3, 75-4  
 今西一 69-6, 70-5  
 入間田宣夫 63-3  
 岩崎奈緒子 78-5  
 岩武昭男 72-3  
 岩鼻通明 66-5  
 岩村登志夫 62-3, 63-3  
 尹正淑→尹正淑(ユン・チョンスク)

## ウ

伍躍 78-4  
 上垣豊 65-5, 66-2, 70-5, 72-4,  
 74-1, 78-4  
 上島享 73-1, 75-4  
 上島有 73-4  
 上田早苗 62-3

上原真人 75-3  
 植村泰夫 61-3, 66-2, 73-1  
 内田忠賢 71-5, 73-6  
 宇野隆夫 62-5, 64-3, 65-5, 66-5,  
 67-2, 67-6, 69-4, 70-3,  
 73-3  
 乳原孝 77-5  
 菟原卓 61-6, 70-3  
 梅原郁 63-6  
 上横手雅敬 63-5, 64-1, 80-4

## 工

江川温 61-2, 62-1, 64-4  
 江川志をり 61-4  
 江口圭一 74-1  
 江田憲治 77-6  
 江南泰佐 78-3  
 遠藤芳信 80-6

## 才

及川英二郎 79-4  
 応地利明 62-1  
 大内一 69-2  
 大江節子 62-5  
 大村拓生 78-1  
 大澤顯浩 76-1, 77-3  
 大澤正昭 64-2  
 大島偕美 61-1  
 太田浩司 70-4  
 大田由紀夫 76-4  
 大谷敏夫 61-4, 63-1  
 大戸千之 67-4  
 大西吉之 78-3  
 大西陸子 61-2, 61-3, 61-5, 62-1  
 大前真 62-3  
 大山喬平 61-1  
 岡内三真 64-3  
 岡崎正孝 74-1  
 岡村秀典 67-5, 69-1, 70-4  
 岡本明 62-2, 65-1  
 岡本隆司 75-5, 77-6

小川由記 79-4  
 尾崎明夫 67-3,  
 尾崎秀夫 77-1, 78-6, 79-6  
 奥西孝至 68-3  
 奥野高廣 62-4  
 奥村哲 62-2  
 長部悦弘 73-4, 76-1  
 小関素明 80-1  
 小田謙爾 72-4  
 小田則子 78-1  
 小田匡保 69-4, 70-3, 73-5  
 小田内隆 80-2  
 愛宕元 67-2  
 小谷仲男 79-2  
 越智武臣 71-1  
 落合弘樹 76-3  
 小野勝年 71-3  
 小野沢透 77-3  
 小野山節 72-3, 80-2

## 力

笠谷和比古 65-5, 69-1  
 梶川伸一 62-4, 62-5, 63-2, 64-1,  
 65-1, 66-2, 67-5, 73-4  
 勝田至 70-3, 71-3  
 勝藤猛 75-1  
 勝山清次 70-2  
 桂川光正 63-5, 68-1  
 桂鳥宣弘 73-5  
 門井直哉 79-2  
 角谷英則 80-5  
 金井静香 78-3  
 狩野久 61-1  
 鹿野政直 61-2  
 鎌田元一 61-4, 63-4, 71-1  
 上川通夫 79-3  
 川井悟 70-3  
 河上洋 72-6  
 川北稔 66-1  
 川口博 62-3  
 川越修 67-2

川 越 泰 博 77-3  
 川 島 昭 夫 61-1, 61-1, 61-2, 61-3  
 河 内 良 弘 75-3  
 河 手 龍 海 61-4  
 川 西 宏 幸 64-5  
 川 本 正 知 64-5, 69-2  
 川 分 圭 子 73-4, 76-2, 76-3, 77-2,  
 78-5  
 康 玲 子 66-1

## キ

菊 池 一 隆 79-2  
 岸 俊 男 68-1  
 岸 田 達 也 61-1  
 岸 本 直 文 71-6, 72-5  
 北 康 宏 79-4  
 木 田 知 生 61-5  
 北 村 昌 史 72-6, 73-3, 73-6, 76-6,  
 80-3  
 北 村 稔 63-3, 66-4, 68-6  
 紀 平 英 作 61-1, 61-5, 63-5, 74-1  
 金 民 壽 75-1  
 木 村 秀 海 64-6, 69-2  
 京 楽 真 帆 子 76-2  
 金 田 章 裕 61-3, 66-3, 70-3, 78-4

## ク

楠 山 修 作 69-3  
 久 保 一 之 71-1  
 栗 原 麻 子 76-4, 77-4, 78-4  
 栗 本 薰 71-2  
 黒 田 明 伸 66-6, 71-6  
 黒 田 卓 67-1  
 桑 原 久 男 72-1  
 桑 山 由 文 77-4, 79-2

## コ

胡 宝華→胡 宝華(フ・パオファ)  
 伍 躍→伍 躍(ウ・ユエ)  
 小 泉 洋 65-2, 69-2, 73-3  
 黄 晓芬→黄 晓芬(ホワン・シャオフエン)

康 玲子→康 玲子(カン・ヨンジャ)  
 合 田 昌 史 67-3, 69-5, 75-6  
 河 野 泰 之 76-3  
 小 島 崇 78-5  
 小 島 道 裕 64-2, 67-4, 68-1, 69-1,  
 70-4  
 小 島 泰 雄 74-3  
 古 藤 真 平 70-6, 74-2  
 小長谷 一 之 71-2  
 小葉田 淳 63-5, 71-4  
 小 林 功 77-4, 78-2, 78-3, 79-5  
 小 林 健太郎 61-6, 65-1  
 小 林 茂 63-2  
 小 林 准 二 80-3  
 古 林 清 一 69-1  
 小 林 致 広 62-4, 64-4  
 小 林 道 彦 68-5, 75-2  
 小 林 保 夫 61-2  
 小 林 義 廣 66-4  
 小 林 善 文 66-3  
 小 山 哲 69-4, 71-6, 72-6, 73-5,  
 75-3, 77-3  
 米 家 泰 作 77-1, 80-1  
 近 藤 治 67-5, 68-1, 76-5  
 近 藤 洋 子 65-4

## サ

崔 貞煥→崔 貞煥(チュ・ジョンファン)  
 齊 藤 晨 二 64-6  
 佐 伯 富 62-5  
 阪 上 孝 67-3  
 坂 本 慶 一 63-6  
 佐久間 亮 70-4, 71-4, 72-4, 73-6  
 桜 井 康 人 78-6  
 桜 田 美津夫 79-5  
 佐々木 克 76-1  
 佐々木 博 光 70-1, 72-6, 74-5, 77-5  
 指 昭 博 71-1  
 佐 竹 靖 彦 63-1, 70-1  
 佐 藤 公 美 80-1  
 佐 藤 圭 四郎 62-3

佐藤卓己 68-6, 69-6, 70-1, 73-2,  
77-3

佐藤達郎 78-4, 79-6

佐藤長 61-1, 62-5

佐藤泰弘 70-6, 75-5, 76-5

佐原康夫 68-5, 74-1, 76-1

## シ

潮見浩 68-1

芝井敬司 62-3, 62-4, 64-3, 65-1

芝川治 79-4

柴田純 64-3

柴田昇 79-1

柴山英一 67-2

渋谷聡 74-1, 78-1

澁谷由里 78-1

島居一康 64-5

島田虔次 63-5, 65-1

島田真杉 62-5

清水忠重 66-1

沈箕載 77-2, 79-6

志邨晃佑 63-3, 72-1

下坂守 67-2

車惠媛→車惠媛(チャ・ハウオン)

徐朝龍 71-4, 74-3, 77-4, 79-3

新谷英治 61-6

## ス

蘇瑤崇 80-2

水津一朗 69-1

末尾至行 72-1

杉橋隆夫 62-1

杉村邦彦 70-1

杉本史子 67-6

杉本淑彦 65-6, 67-3, 68-3, 70-4,  
71-5, 73-6

杉山茂 72-1, 80-5

杉山正明 65-1

鈴木栄樹 71-4, 73-4

鈴木利章 61-6, 62-4

角谷常子 76-1

## セ

妹尾達彦 65-6

關尾史郎 74-5

関口裕子 80-4

瀬原義生 72-5

千田嘉博 70-2

## ソ

蘇瑤崇→蘇瑤崇(ス・ヤオチョン)

曾我部静雄 64-1

杣田善雄 80-5

## タ

平雅行 63-3, 65-1

高木勇夫 65-3

高木智見 68-6

高田京比子 73-1, 75-2, 78-3,  
79-6

鷹取祐司 79-5, 80-6

高橋克壽 71-2, 76-2

高橋正 69-5, 77-1

高橋照彦 72-6, 77-6

高橋秀直 67-4, 68-3, 71-6, 72-5,  
75-2, 76-5, 80-2

高橋康夫 61-5

高橋芳郎 69-3

滝波章弘 76-5

瀧浪貞子 69-5

武居良郎 64-1

武島良成 79-2, 80-6

竹田和夫 71-3

竹田有 63-2, 64-2, 74-5, 80-3

竹中幸史 80-2, 80-4

竹中亨 62-6, 64-1, 64-4, 67-1,  
69-3, 71-2, 75-1

田島公 68-3, 70-3, 71-1, 73-3

立川健治 63-5, 65-3, 66-2, 69-3,  
72-1

館野和己 62-1

田中誠二 61-6



田中俊明 64-4, 67-4, 68-4  
 田中俊之 76-2, 76-6, 77-2, 78-2,  
 78-3, 80-6  
 田中倫子 62-6  
 田中峰雄 67-4  
 棚橋信明 78-1  
 谷井俊仁 70-6, 72-2, 73-5, 77-2  
 谷井陽子 73-6  
 谷川道雄 68-6, 73-1  
 谷口健治 62-1, 73-2, 74-3, 77-2,  
 80-3  
 谷口淳一 79-1  
 谷口義介 68-1  
 田村実造 64-5  
 田良島哲 68-4  
 檀上寛 65-2

## チ

崔貞煥 75-3  
 笹沙雅章 62-4, 75-4, 77-1  
 千葉豊 71-3, 72-6  
 千本秀樹 64-6  
 車惠媛 79-1  
 趙雨楽 74-4  
 鄭炳俊 77-5  
 沈箕載→沈箕載(シム・キジエ)

## ツ

塚本明 69-5, 70-5, 79-6  
 塚本栄美子 78-3  
 辻正博 78-5  
 堤一昭 75-3, 78-6  
 常松洋 61-2, 61-3  
 鶴見太郎 75-6, 77-4

## テ

ティンネフェルト, F. 72-4  
 鄭炳俊→鄭炳俊(チョン・ビュンジュン)  
 寺内浩 72-6, 75-2  
 寺山恭輔 74-4

## ト

藤内哲也 78-2, 80-5  
 利光有紀 69-5, 72-2  
 戸田秀典 61-5  
 戸田裕司 73-1  
 轟木広太郎 78-3  
 外村大 79-3  
 富岡次郎 68-4  
 富澤靈岸 61-5, 69-2, 70-4  
 富永泰代 76-4  
 富谷至 63-6  
 富山一郎 77-2  
 虎尾達哉 65-5, 68-6, 75-6

## ナ

永井和 61-4, 62-1, 62-1, 72-4  
 長井千秋 78-6  
 永井三明 61-6, 63-1, 63-5  
 中口久夫 65-6  
 長倉敏 63-1  
 中嶋薫 69-1  
 中島健一 64-3  
 長島弘 63-4  
 永田英正 70-3, 78-4  
 永田諒一 61-1, 62-3, 63-4, 65-1,  
 65-2, 72-2  
 中谷博幸 61-4, 62-5, 63-3, 64-2,  
 64-5, 68-1, 77-4  
 中塚明 67-3  
 仲手川良雄 70-3, 73-2, 74-2  
 長沼忠兵衛 68-1  
 中野耕太郎 80-1  
 中野節子 67-5  
 中村敦子 77-3, 78-2, 78-3  
 中村仁志 69-6  
 中村幹雄 69-1, 78-5  
 中山章 66-3, 72-3  
 中山昭吉 70-2  
 南基鶴 73-5  
 難波純子 72-2, 73-6

## 二

新 納 泉 65-4  
 仁 木 宏 69-2, 71-2, 75-3  
 西 井 克 己 67-3  
 西 川 真 子 79-1  
 西牟田 祐 二 68-5  
 西 村 貞 枝 61-6  
 西 村 孝 彦 63-2  
 西 村 俊 範 62-6, 66-1  
 西 本 昌 弘 70-2, 78-2  
 西 山 伸 73-2  
 西 山 克 62-2  
 西 山 良 平 63-2, 63-4, 64-3  
 新 田 一 郎 78-1, 78-2  
 丹 羽 佑 一 61-2

## ネ

根 津 由喜夫 70-1, 71-3, 74-2, 74-6,  
 80-3, 80-5  
 根 本 聡 79-2

## ノ

野 田 宣 雄 61-3, 63-6  
 野 村 耕 一 74-1, 74-6

## ハ

萩 原 淳 平 67-2  
 朴 永 哲 80-4  
 橋 本 道 範 70-5  
 橋 本 初 子 62-5  
 橋 本 義 則 63-3, 64-6  
 長谷川 久 美 75-6  
 長谷川 博 史 76-3  
 服 部 春 彦 63-2, 66-6, 70-2  
 服 部 良 久 61-5, 62-2, 62-6, 63-2,  
 63-3, 64-1, 65-1, 66-6,  
 70-3, 71-4  
 羽 田 正 64-4, 67-1, 67-3,  
 浜 田 正 美 76-2  
 林 和 生 63-1

林 謙一郎 75-4  
 林 巳奈夫 63-6, 72-2, 73-5, 74-4,  
 76-5, 77-6, 78-5, 79-5  
 原 秀三郎 80-2  
 原 田 一 美 73-5  
 春 田 晴 郎 73-3, 77-4

## ヒ

樋 口 隆 康 63-1, 66-1  
 久 野 修 義 61-4  
 菱 田 哲 郎 69-3, 70-1, 70-4, 74-2  
 姫 岡 とし子 79-5  
 平 瀬 直 樹 67-3  
 平 野 千果子 77-1, 80-1  
 廣 實 源太郎 67-4  
 廣 畑 輔 雄 67-3

## フ

胡 宝 華 79-6  
 福 井 捷 朗 76-3  
 福 原 啓 郎 68-2  
 藤 井 讓 治 76-4  
 藤 井 正 63-6  
 藤 田 恒 春 69-1, 70-1, 74-3  
 藤 田 裕 嗣 67-6, 70-6  
 藤 永 壮 77-1  
 藤 縄 謙 三 62-6, 76-2  
 藤 目 ゆ き 71-5, 73-2  
 藤 本 孝 一 76-3  
 藤 本 雅 彦 73-5  
 藤 本 幸 夫 65-4  
 船 越 昭 生 62-1, 63-6, 64-6, 79-1  
 夫 馬 進 65-4, 66-4, 77-2  
 古 澤 直 人 73-2

## ホ

朴 永哲→朴 永哲(パク・ヨンチョル)  
 堀 田 慎一郎 77-3  
 堀 健 彦 78-1  
 堀 川 徹 62-6, 63-6  
 堀 地 明 77-2

黄 暁 芬 74-6, 77-5, 78-5  
 本 郷 真 紹 67-5, 68-2  
 本 田 毅 彦 70-6, 73-1  
 本 田 實 信 70-1  
 マ  
 前 川 和 也 73-1  
 前 田 禎 彦 70-6  
 間 瀬 収 芳 67-1  
 俣 野 好 治 63-6  
 松 井 嘉 德 69-4, 72-4  
 松 浦 茂 70-4, 80-5  
 松 浦 高 嶺 64-2  
 松 浦 典 弘 80-2  
 松 尾 尊 兌 65-6, 69-2, 71-1, 78-1  
 松 田 隆 典 69-4  
 松 田 武 65-3  
 松 田 利 彦 74-5, 78-6, 80-3  
 松 永 靖 夫 63-1  
 松 延 秀 一 63-1, 63-5, 64-3, 64-4,  
 64-6  
 松 本 俊 郎 80-4  
 松 本 悠 子 71-3, 75-4  
 間 野 英 二 73-2  
 丸 山 幸 彦 61-2, 65-2  
 ミ  
 見 市 雅 俊 67-5, 68-3  
 美 川 圭 67-3, 69-3, 69-4, 74-6,  
 75-4  
 三 川 讓 二 71-3, 74-6  
 水 田 義 一 69-3  
 水 野 章 二 62-2, 65-3  
 水 本 邦 彦 61-6, 64-5  
 水 三 谷 太 郎 74-5  
 南 川 高 志 63-2, 64-4, 65-2, 67-1,  
 68-1, 69-2, 70-2, 71-6,  
 74-3  
 南 出 真 助 72-2  
 宮 川 剛 80-4  
 宮 城 公 子 63-6

三 宅 正 彦 67-2  
 宮 澤 知 之 64-2, 71-2  
 宮 本 一 夫 68-2

## ム

村 岡 健 次 63-4, 75-5  
 村 瀬 直 志 80-2  
 村 田 数之亮 65-4  
 村 田 靖 子 78-3  
 村 山 修 一 69-6

## モ

望 田 幸 男 70-5  
 元 木 泰 雄 64-4, 65-3, 67-6, 79-1  
 榎 山 明 64-4, 65-6, 69-6, 72-1  
 桃 木 至 朗 66-5  
 森 悦 子 72-5, 76-4  
 守 川 知 子 80-2  
 森 下 章 司 74-6  
 森 田 猛 78-6  
 森 原 隆 65-1, 65-2

## ヤ

八 尾 隆 生 72-1  
 矢 木 毅 76-2, 77-1  
 八 塚 春 児 61-6, 61-6, 62-2, 62-6,  
 63-6, 64-4, 65-5, 67-5,  
 71-5, 72-2, 73-1, 75-1,  
 79-4  
 梁 川 洋 子 78-3  
 山 崎 耕 一 76-3  
 山 崎 孝 史 76-2, 77-4  
 山 澄 亨 75-3, 76-4  
 山 田 作 男 61-5  
 山 田 崇 仁 80-4  
 山 田 達 夫 75-2  
 山 田 信 夫 62-1, 64-2  
 山 田 賢 69-6  
 山 中 一 郎 72-1  
 山 内 昭 人 61-5, 75-5  
 山 邊 規 子 64-6, 65-2, 66-1, 66-6,

73-5, 77-1  
 山 村 亜 希 80-2  
 山 本 一 也 77-5  
 山 本 茂 62-2, 71-4  
 山 本 四 郎 61-3, 62-5, 64-1, 68-2,  
 76-6  
 山 本 進 70-6, 71-5, 75-6, 77-5,  
 79-3  
 山 本 正 68-5, 76-2  
 山 本 秀 行 71-4  
 山 本 光 朗 67-6  
 山 本 幸 男 68-2  
 矢 守 一 彦 62-3, 65-3, 72-6  
 楊 啓 樵 70-6

## ユ

湯 浅 幸 孫 64-1  
 尹 正 淑 72-4

## ヨ

楊 啓樵→楊 啓樵(ヤン・チーチャオ)  
 横 井 敏 郎 72-4  
 横 内 裕 人 79-4  
 横 山 良 61-5  
 吉 井 秀 夫 74-1  
 吉 岡 潤 80-1  
 吉 尾 寛 63-6  
 吉 川 聡 79-5

吉 川 真 司 67-4, 71-4  
 吉 川 敏 子 74-4  
 吉 田 澁 一 62-3  
 吉 田 敏 弘 61-1, 66-3  
 吉 田 広 76-6  
 吉 野 秋 二 79-3  
 吉 本 道 雅 69-5, 71-6, 73-2, 74-5,  
 76-3, 78-3  
 葭 森 健 介 63-2, 70-5  
 米 倉 二 郎 66-1  
 米 田 賢次郎 64-3  
 米 田 利 浩 80-3, 76-1

## リ

リ, J. 66-2, 67-1  
 李 権 生 75-6  
 李 啓煌→李 啓煌(イ・ケイファン)  
 林 原文子 78-2

## ワ

若 原 憲 和 67-6, 69-3  
 若 松 寛 62-1, 71-5  
 和 田 晴 吾 64-3  
 和 田 光 弘 70-5, 75-1  
 和 田 萃 61-3  
 渡 邊 伸 67-5, 69-2, 70-4, 71-3,  
 77-4  
 渡 辺 信一郎 61-2, 66-1, 69-1